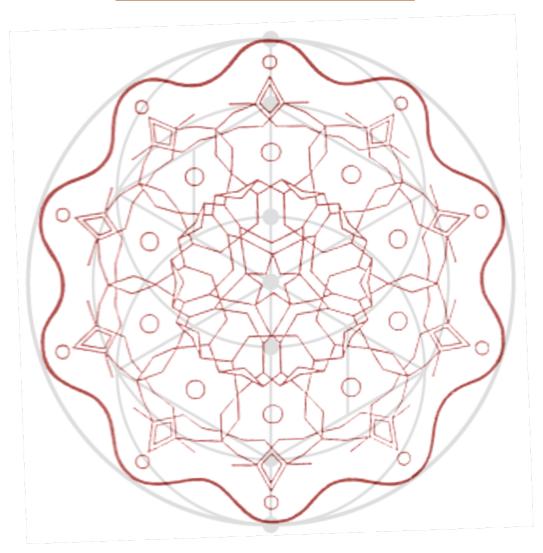
The Art of Human Alchemy LABO2022-2

<u><わたし>と<あなた>の間に</u> <u>生み出される世界</u>



Ayasofya Co.,Ltd.

The Art of Human Alchemy LABO2022-2

<u><わたし>と<あなた>の間に</u> <u>生み出される世界</u>





【1. 時空に取り残された「主体」】

- ・「主体」「主観」とはなにか?
- ・「客体」「客観」とはなにか?

<鏡の国に迷い込んだアリス>

アリスが鏡の国にどのようにして誘われたのか アリスが元いた場所とは?

<鏡像段階論を理解する>

人間の意識は、まずは虚空なベース(エス)そのもので あり、人は生まれた直後では一人称視点で生きています。 幼児は神経系が未発達であるため、自分の身体を「統一 体」と捉えられないところから始まります。やがて成長 していくごとに、母の視線を始め、たくさんの他者の視 線や反応といったものや、鏡に映る自己の姿を見ること によって自分の身体を認識し、「見られている姿」、「鏡 に映った像」が自分であり、一個体の身体としてまとま りのある存在だと想像するイメージを確立させていきま す。一般的に、生後6ヶ月から18ヶ月の間に、幼児は この過程を経るとされ、この段階を鏡像段階と呼び、主 体の構造という観点に立つとき、発達の基本となる重要 な時期を指します。この「鏡」とは、まぎれもなく「他



ジャック・ラカン (1901~1981) (フランスの哲学者、精神医)

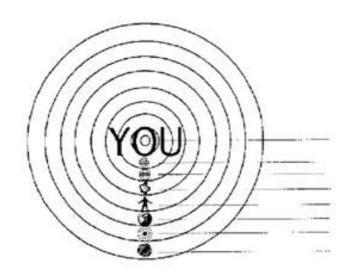
者」のことでもあり、人は「他者」を鏡にすることによって、「他者」の中に自己 像を見出し、そしてこの自己像自体が「自我」となります。幼児の「自我」が見て いる自分の姿と思っているものは、鏡に映し出された、むしろ「自己疎外された像」 ということになり、自分自身ではなく、眼前に差し出された鏡像(他者)というこ とになりますが、「これが自分である」という認識を持ちます。要するに、この鏡 像と根源的な同一視をする幼児にとって、自我とは他者ということになります。「自 我」は、「エス」の持つ空虚さ・無根拠性、無能力性を覆い隠せる想像的なもので あり、幼児にとって快いものとして作用します。人は生きている限り、「見られる」 ことを意識の中心に置きやすく、この鏡像段階は、「自己」と「他者」、あらゆる 一般的な対人関係の基本的構造にとても大きな作用を及ぼしています。

<主体を探し出す>

本当の「心」のある場所

【2. わたしとは何者か?】

・「観察する位置」の重要性



「問い」に対する答えは、 前提や「意識の位置」をどこに持つかによってまったく違ったものになる。

・距離ゼロから見た「わたし」とは?

【3. この世界を「見ている」意識の位置】

わたしのふたつの側面の境界を明確にする

『ワーク①』

●カフェで向かい合って座っている男女がいます。 女性は涙を流しながら話しています。

あなたはどんなふうにそれを見ますか

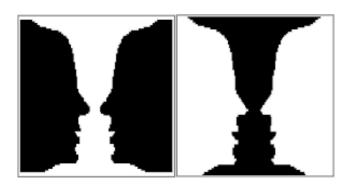
- 何を見ているのか?
- ・何が見えているのか?

<意識の位置>を目覚めさせる

【4. 「現実」のつくられ方】

・「ゲシュタルト」とは?

~ドイツ語:形、形態、状態の意味を持ち、「思考様式」「空間の認識の仕方」



『見えているものは、自分の中にある何を映し出しているのか』

- ・「フォーカス」と「認識」と「現実」の関係
- →「○○」と「○○」の力が人生をつくっている

『ワーク②』

●「フォーカス」を向ける練習

【5. 「意識の位置」はどこにあるか?】

『ワーク③』

- ●目の前で「りんご」を回してみよう
- * この世界を見ているのは肉体ではなく「意識」である
- * 意識はこの物質世界にはいない
- * 自我の認識位置は物質的身体に閉じ込められている(他者の他者)

『ワーク④』

●思考に気づいている意識

<あらためて、「自分とは」>

【6. ふたつの空間の境界にあるもの】

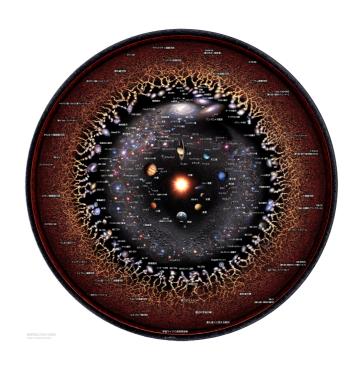
- * 二つの異なる空間が重なった状態で存在していることを見つける
- 「すべての現象は必然的に三つの力の現われである」~グルジョフ~

「三つ目の力」とは? 「磁力」をベースに「無極」を思考する。

・「物質」と「精神」という二元にみる「もうひとつの力」

【7. 「円」と「線」の関係】

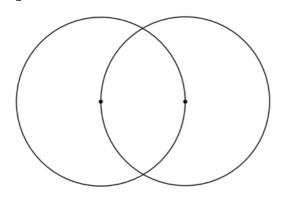
- ・「線」の上次元意識の「円」の視座
- ・「直線」に閉じ込められた意識 「線」は対立と「無限」に閉じ込められる意識世界
- ・「円」=端と端が同じ場所で出会い、無限を閉じている「線」の上次元の幾何学
- ・「精子」(中心点=創造の力)と「卵子」(円=創造を生み出す器)の 螺旋構造と「国産み」
- ・「球体」の始点と終点=○○○
 - ①特異点とは
 - ②ビッグバンとは
 - ③先へ進むということは



【8. <わたし>と<世界>との関係】

「行動すること」は、必ず「世界」と相対的な関係性がある ~「自分がやっている」という自我個体視点から意識を拡張させる~

- ・閉じた「円」の世界こそが「創造」を生み出す器
- ・「円心」を理解する」



<ヴェシカ・パイシスとは>

円と円が中心で交わったアーモンド形の部分。

「ヴェシカ・パイシス」とは、聖なる魚の浮袋という意味で、キリストの象徴とされています。

宇宙の最初の細胞分裂の形であり、創造の始りのシンボル。

すべての創造の源、種子。

善と悪、陰と陽、月と太陽、女性と男性、 目に見えない世界と見える世界など、 二元両極の高い位置での統合という意味を持ちます。

悪を無くして善だけにするのではなく、また善を無くして悪だけにするのでもなく、 二つの対照的なエネルギーが互いを受け容れ、互いのエネルギーを保持しながらも、 新しい第3のエネルギーが創造される象徴。

ヴェシカ・パイシスは、第三の目や女性器にも例えられ、無から有、新しい命(エネルギー)を生み出されるゲートを表します。

【9. 「目合う」ことの本当の意味】

・「触覚」次元から「視覚」次元へ移行することの重要性

創造の原野へ出る~ 目で話し、目で聴く世界へ~

「みるもの」「みられるもの」が結ばれる「場」に生まれる「キリスト」

【10. 再浮上へ~】

「あなた」と「わたし」が結ばれているその「場」が 偉大なる宇宙そのものであり、世界そのもの

> どんな世界になるのか どんな世界を創造するのか

こうしている「イマ」にみえているものが 確かな始まりであり、終わりであり、統べて

身体とは神体

「水」と「土」に根ざす肉体は ある意味とても「現実的」で「物理的」象徴のようなもの

天より

その重みで地上へと下降しきった精神は 最も「谷」の極点にて反転し 再び天へ向けての霊的な再浮上を始める

旋回という流動性が導くそれは自然の摂理

それは本来、何の努力も必要なく フィシスの脈動により起こっていく

「わたし」と「あなた」は 寺院である「身体」という 四次元空間にある知覚の繊細さとともに出会い

> 空間の中で対話し 空間の中に踊り戯れ やがて空間に溶けていくとき

> > 「本能」は「本性」へ

「感情」は「感性」へ

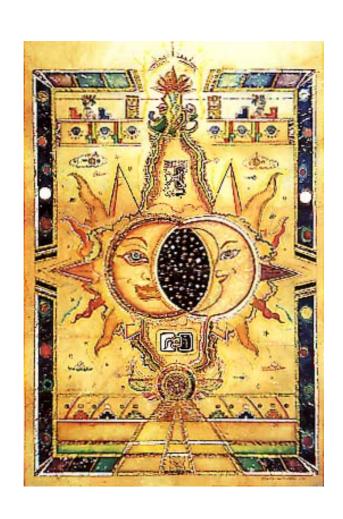
「思考」は「知性」へ

「肉体」は「神体」へ

神の合一とともに 目覚めのときへ

橋本 和泉 (ANU.ARMERA)

Copyright © 2022 Ayasofya Co.,Ltd. All Rights Reserved.



The Art of Human Alchemy LABO2022-②

<わたし>と<あなた>の間に生み出される世界

令和4年 7月1日 初版発行

令和4年 7月24日 第二版発行

著者橋本和泉 (ARMERA)編集·発行者橋本和泉 (ARMERA)発行所株式会社Ayasofyahttps://art-of-human-alchemy.cominfo@ayasofya-awake.com